

第16回町田発国際ボランティア祭(2013年12月8日、於：町田市民フォーラム)を見学しました。私にとって、一番注目のイベントは認定NPO法人の日本雲南聯誼協会のプレゼンテーションでした。

日本雲南聯誼協会の目的は中国南部の雲南省の貧しい山村に小学校を50校建設すること。設立して10周年ですが、すでに23校設立したそうです。興味を持ったのは建設費の負担は50%だということです。残り半分の費用は説得・交渉して昆明市などの地方政府に出資させるそうです。さらに協会は、生徒が進級するに従って学費を援助する「25の小さな夢基金(一種の里親制度)」のサポーターを募ってフォローしています。このシステムで大学に進学している学生も誕生し始めたとのことでした。

「雲南省」といえば少数民族が多いことで有名です。現在はベトナム、ミャンマー、ラオスと国境を接していますが、古くは「南蛮」といわれ、前漢の高祖(劉邦)のひ孫の武帝の時代に南越(現ベトナム)を滅ぼして以来この地方は厳しい環境に置かれているというぐらいの知識しかありませんでした。

いろいろ問題を抱えている地方政府を説得して校舎の建設までもっていくことは努力と忍耐が必要なことだと容易に想像できます。プライドの高い昨今の中国の中央政府は、こうした日本人の貢献を知っているのでしょうか。いささか疑問です。

日中両国の政府はトップ会談が出来ないことを理由に上げ、非難し合っています。両国の調査によれば嫌中・嫌日のスコアが90%を超えるという情けない状況です。「日中交流」とか「日中友好」とかいうコトバが空しくなりつつあります。私はこの協会の理事長である初鹿野恵蘭さんを初めとするメンバーの活動に爽快感を感じ、その背後に「徳」があるのではないかとさえ思えました。つぎにまた王敏さんの著書から借用します。

× × × × × × × ×

中国では「徳=仁・義・礼・智・信」で国を治めることを最善とする。尚武ではなく「尚文=文治」が尊ばれた。「以人為本(人を以って本となす：管子)」。人物評価は

「徳」にプラス「能力」で行われる。自然の恵みと恐怖を「天意」という。天意を人格化して上帝ともいうがその子を「天子」という。天意を受けて政治を行うのが天子である。後世になると天意は「民衆の世論」と代り、民衆の意を受けて国を治めるのが天子(代行者)ということになる。「国を愛するが故に起こした暴動は、時の皇帝や政権に逆らってもかまわない」という。革命とは「天命を革(あらた)める」の意。

× × × × × × × ×

「徳」といえば儒教。儒教といえば論語。論語といえば孔子です。聖徳太子の時代、遣隋・遣唐使によって移入され、江戸時代には朱子学として大成しました。ある部分は日本人のDNAになっているとも言えると思います。

古い話で恐縮ですが。読売新聞の論説副委員長を務めておられた関憲三郎氏の話です。彼は文化大革命時に特派員として北京に駐在しており、奥様の運転で北京を走り回って「壁新聞」を読み解きスクープを連発した中国通でした。偶然、周恩来首相がなくなった日(1976年1月8日)にご一緒していました。私は「毛沢東の革命思想」はどう

いうものかを尋ねました。

毛氏曰く、

「中国には2500年に及ぶ儒教の教えがある。自分(毛)の一生が100年あってもその教えを消し去ることはできない」「革命を継続するには思想上に対立概念を持ち込み、互いに争い合う必要がある」ということでした。

この言葉は後に起こった「天安門事件」を初め、今日まで続く幾多の抗争からも読み取ることができます。しかし私たち一般市民は自分たちでできることをやればよい。日本雲南聯誼協会の支援活動も大学の留学生、観光客の誘致活動も「真の、そして現在の日本」を理解してもらうためには、ささやかであってもいいと思います。

この言葉は後に起こった「天安門事件」を初め、今日まで続く幾多の抗争からも読み取ることができます。しかし私たち一般市民は自分たちでできることをやればよい。日本雲南聯誼協会の支援活動も大学の留学生、観光客の誘致活動も「真の、そして現在の日本」を理解してもらうためには、ささやかであってもいいと思います。

\* NPO法人日本雲南聯誼協会の活動に関心をお持ちの方は下記のURLで検索してみても如何でしょうか。<http://www.jyfa.org/>